



江戸大地震未代新の種全

安政二年
十月二日

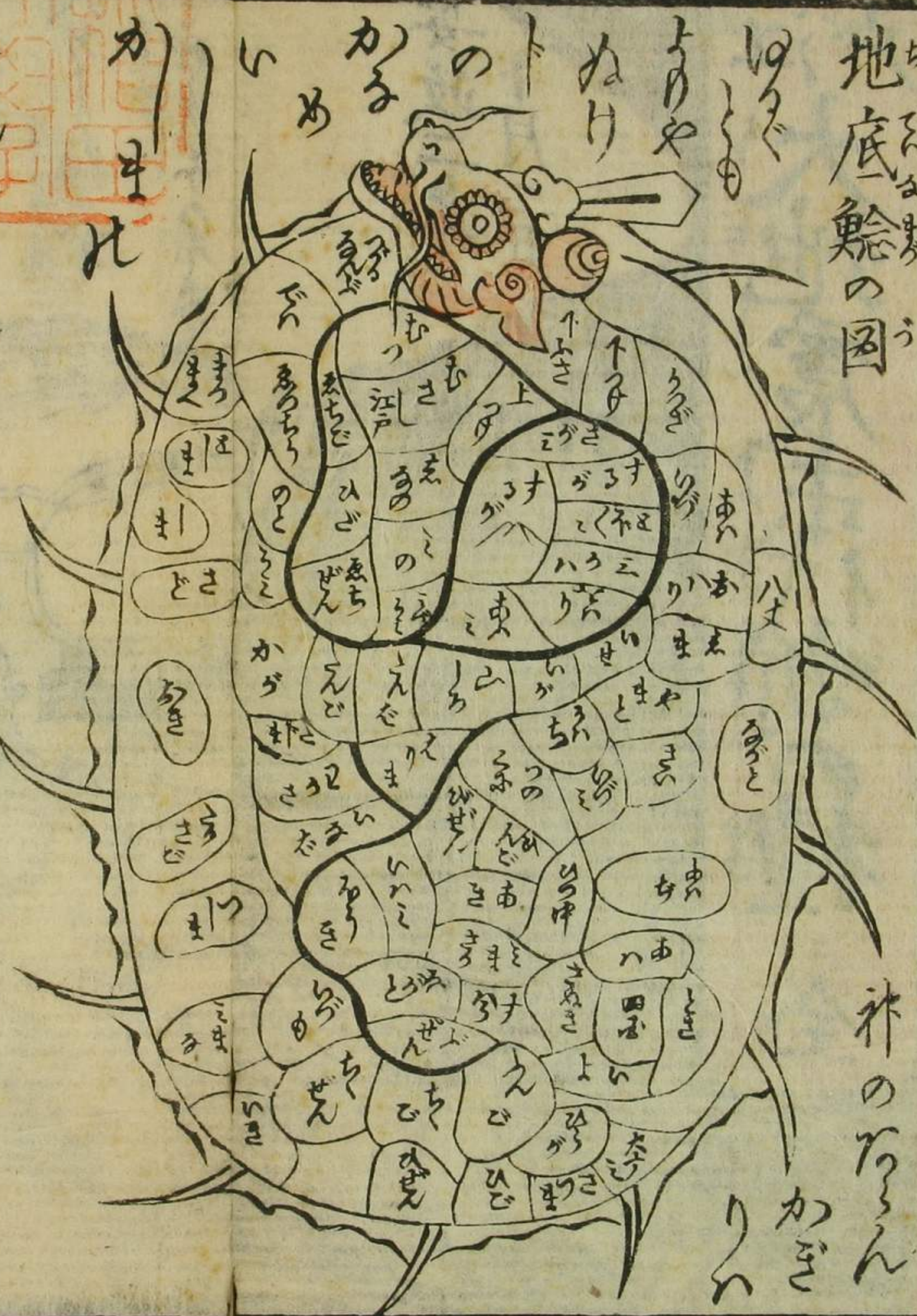
71
3639



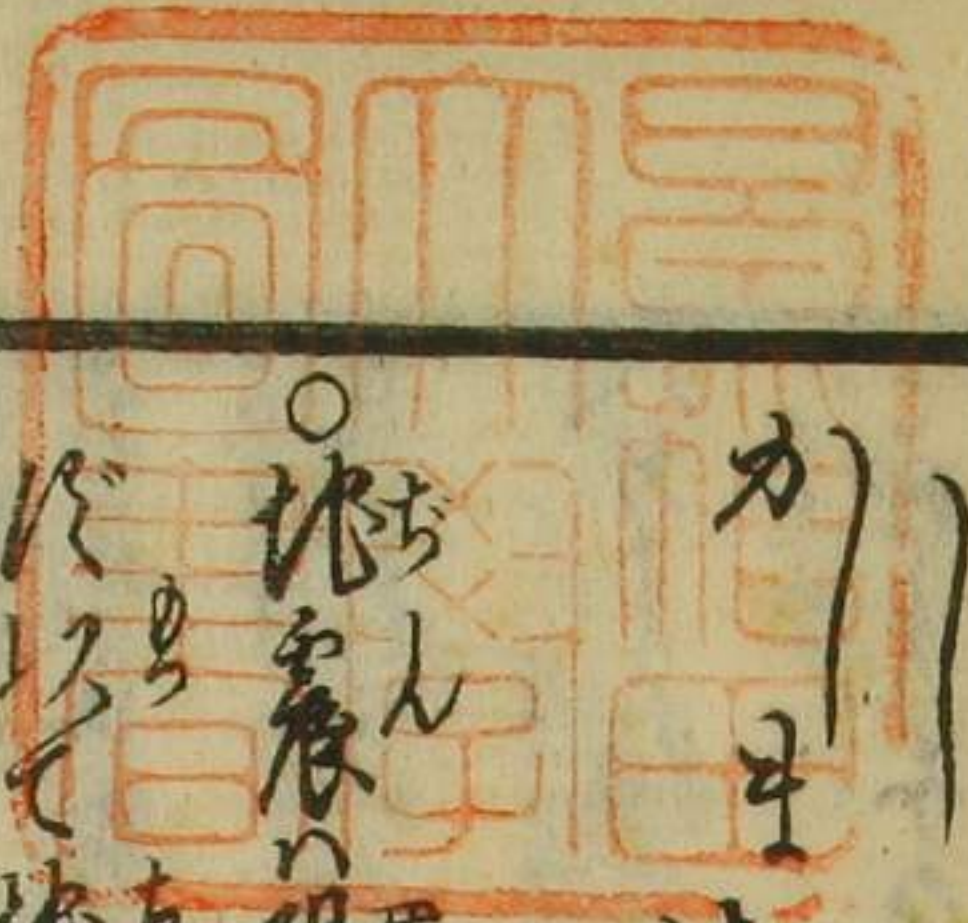
門 3639
 號
 卷

東大地層末代動の種

地底鯨の図



○地層の陽陰の下に依り陰小迫らる故小陽外と終り
 此の地動くふむると又地の中小竅ありて地の實果のてく
 みて水湧り陽外も出入り其陰相和するゆへ者は此如
 陽外温沛く出ることゆへに歳月を積む後陽陰下小魚解
 するひみみ出するところ見ざる小地層動は故小指を居る
 ところ極則ありとの人ども次小を居るたところへ後果と云



大蔵
 2511.5

安政二卯年十月

二日夜四時大地震

震り出云は假

三ノ谷江子と野

家老多男女の

死亡救と初はいつ

八方より糧火を

と燃より下の不天と

こがす出火とゆふ十八

るゆらぎをまは焼つて

く三十二日とあり又廿七

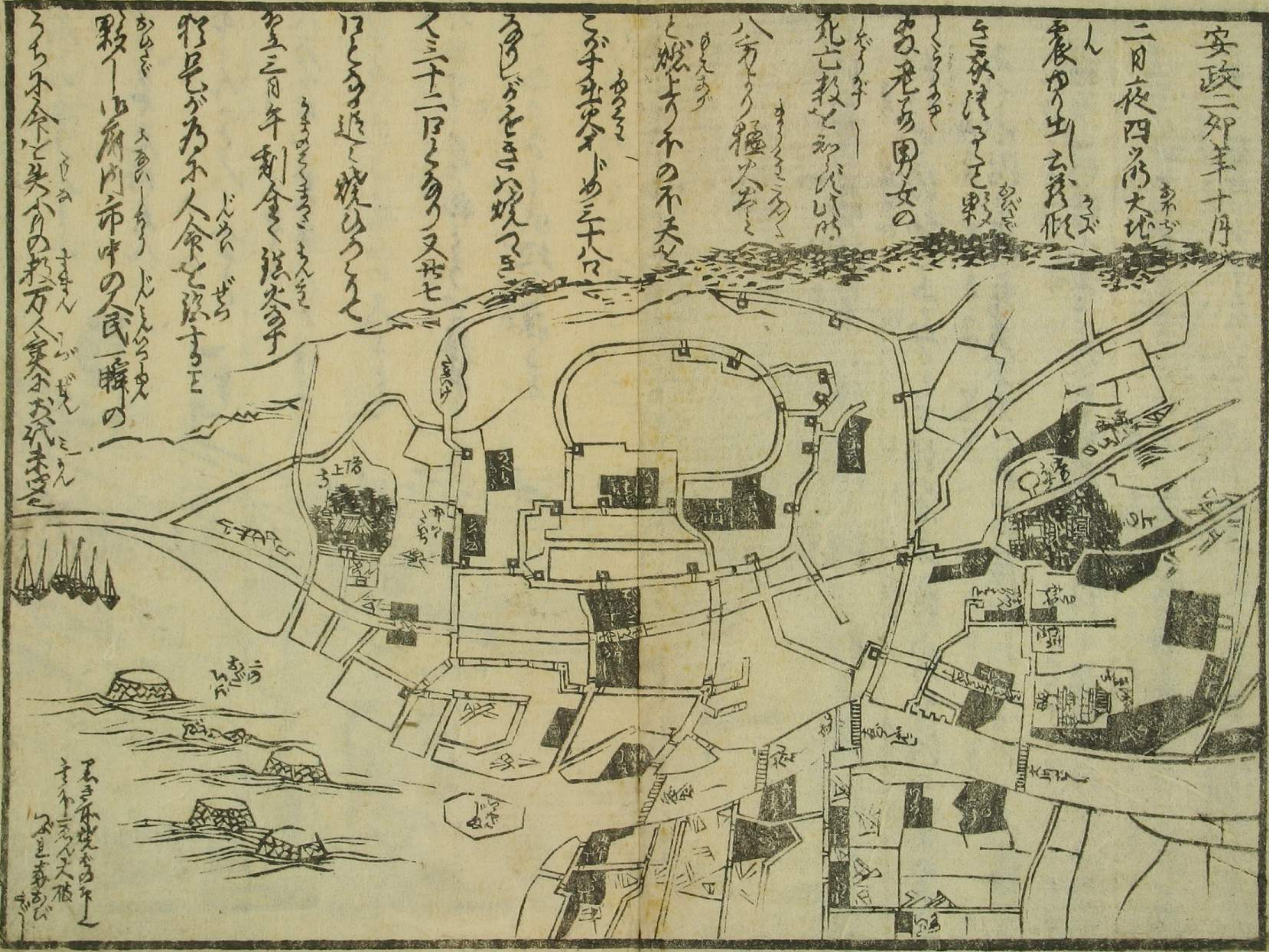
日とあり追て焼ゆらとて

あま二年割金と強火多

行是がわふ人命と恐する

穀一山府内市中の人民一時の

ろろふ命と失ふの約万人食ふおれ未だ



長き不焼あり
 千不焼あり
 不焼あり

○夜更の中より一ノ

まきりや大地をん

あらんうとんとあそき

大及人等と夜更風戸障子

あつひい大さ用心のふふとそ

持出せし若おととと接せ

かそひとまーい知不様と

一般ありかて七八日のころ不

玉至地をん 漸く落しと

降ひ進み所陳するのちく十四日

終日多ういゆ不あり 所陳止

○水城外に浸ふち。此見内内外廣

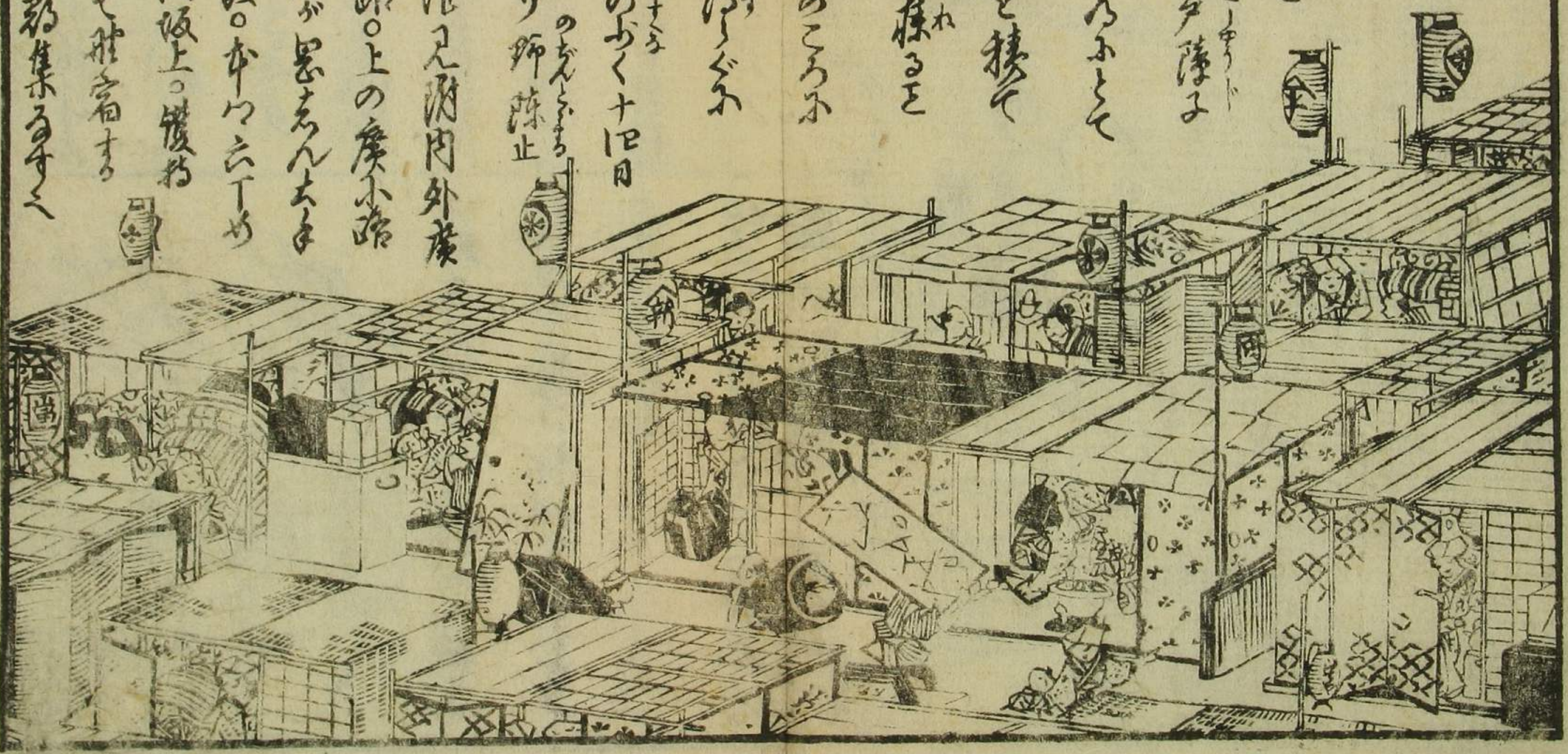
場。外神田廣小路。上の廣小路

○浅草廣小路。思ふか思ふ人太

加呂森山の方。九段坂上。樓内

院系此より別して形常する

りのあて形集るす



○大^{あがて}外^{そと}河^が井^い雅^{みや}末^{すえ}以^も標^{ひょう}半^{はん}中^{ちゆう}の

燒^や表^{ひょう}出^でつ^つお^お見^み砂^{すな}の^の森^{もり}山^{やま}野^の

○標^{ひょう}燒^やの^の傳^{でん}奏^{そう}平^{へい}と^とさ^ささ^さの

大^{おほ}名^な小^こ踏^{ふみ}沙^さ流^{りゅう}標^{ひょう}七^{しち}人^{にん}下^かの^の山^{やま}野^の

本^{ほん}多^た標^{ひょう}之^のお^お標^{ひょう}周^{しゅう}以^も標^{ひょう}細^{さい}川^{がわ}

標^{ひょう}お^おら^ら燒^やの^の小^こ坐^ざ系^{けい}標^{ひょう}酒^{しゅう}白^{はく}標^{ひょう}

城^{じやう}名^な標^{ひょう}大^{だい}因^{いん}標^{ひょう}乃^の幼^{ごう}標^{ひょう}交^{かう}目^{もく}標^{ひょう}

以^いへ^へん^んと^とて^て大^{だい}破^ぱ

○標^{ひょう}島^{しま}門^{もん}外^{がわ}お^おら^らい^いん^んが^が系^{けい}標^{ひょう}半^{はん}

お^おき^きん^んが^が標^{ひょう}お^おら^ら丹^に後^ご古^こ標^{ひょう}半^{はん}

標^{ひょう}の^のお^おら^ら半^{はん}の^のお^おら^らお^おら^ら

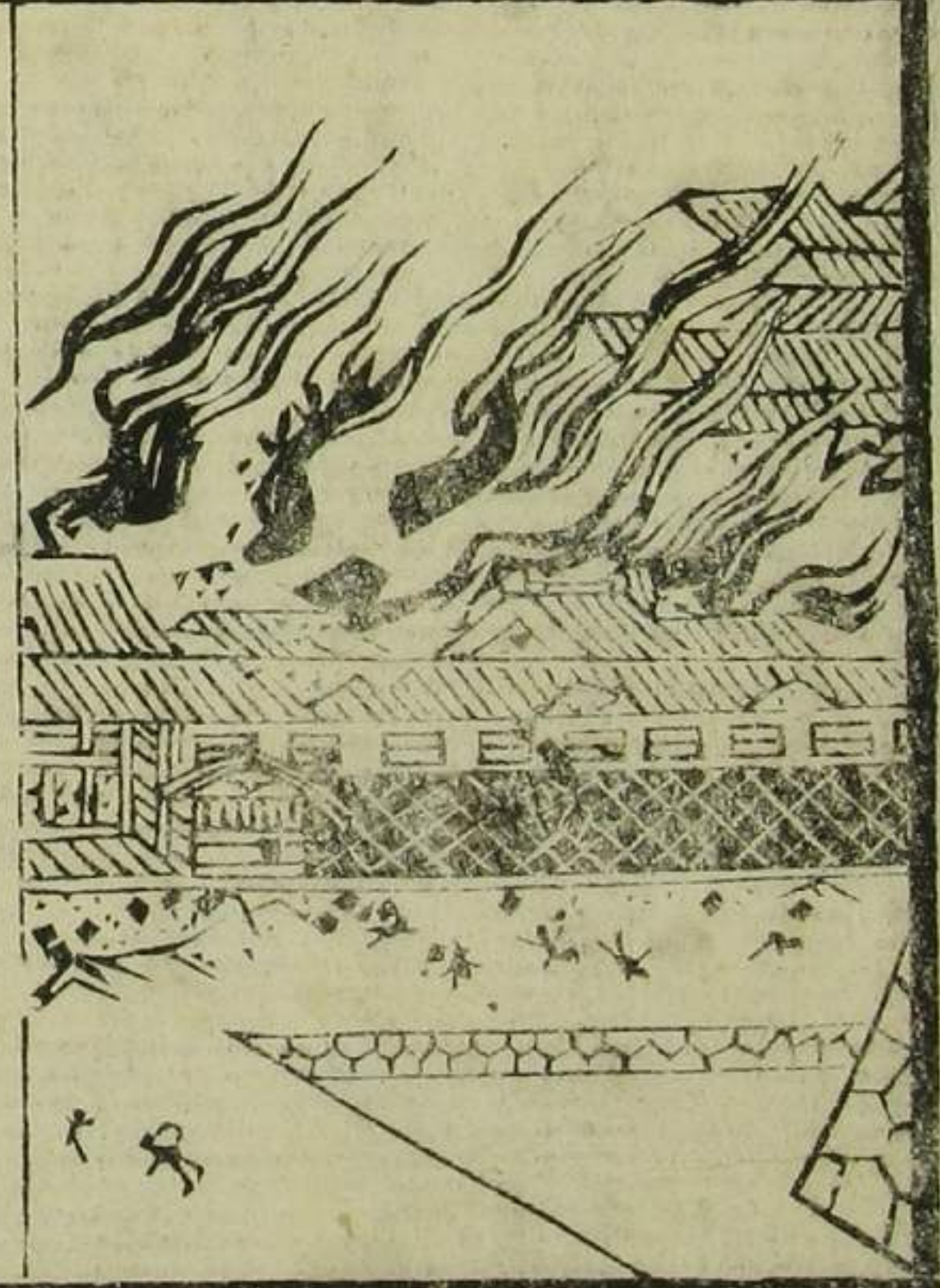
○乃^のと^と標^{ひょう}石^{いし}恒^{こゝろ}標^{ひょう}半^{はん}

○八^や代^{だい}す^すじ^じ大^{だい}消^{しょう}中^{ちゆう}と^と火^かの^の見^み標^{ひょう}

お^おら^らの^の見^み標^{ひょう}半^{はん}の^のお^おら^ら

○標^{ひょう}燒^や標^{ひょう}長^{ちやう}乃^の標^{ひょう}半^{はん}

○標^{ひょう}同^{どう}標^{ひょう}表^{ひょう}長^{ちやう}乃^の標^{ひょう}半^{はん}



○表^{ひょう}出^でつ^つお^お見^み砂^{すな}の^の森^{もり}山^{やま}野^の

○標^{ひょう}燒^やの^の傳^{でん}奏^{そう}平^{へい}と^とさ^ささ^さの

○大^{おほ}名^な小^こ踏^{ふみ}沙^さ流^{りゅう}標^{ひょう}七^{しち}人^{にん}下^かの^の山^{やま}野^の

○本^{ほん}多^た標^{ひょう}之^のお^お標^{ひょう}周^{しゅう}以^も標^{ひょう}細^{さい}川^{がわ}

○標^{ひょう}お^おら^ら燒^やの^の小^こ坐^ざ系^{けい}標^{ひょう}酒^{しゅう}白^{はく}標^{ひょう}

○城^{じやう}名^な標^{ひょう}大^{だい}因^{いん}標^{ひょう}乃^の幼^{ごう}標^{ひょう}交^{かう}目^{もく}標^{ひょう}

○以^いへ^へん^んと^とて^て大^{だい}破^ぱ

○標^{ひょう}島^{しま}門^{もん}外^{がわ}お^おら^らい^いん^んが^が系^{けい}標^{ひょう}半^{はん}

○お^おき^きん^んが^が標^{ひょう}お^おら^ら丹^に後^ご古^こ標^{ひょう}半^{はん}

○標^{ひょう}の^のお^おら^ら半^{はん}の^のお^おら^らお^おら^ら

○幸持出外様田久保町（元）

○代地此辺大被

○月兼房町松平去ノ様表（元）

長屋少ノ様

○毛利源俊守様表ノ様表（元）

○比本升町跡ノ様表ノ字田川

○町林の町と徳町大ノ様と

怪象人多ク

○芝林の本社去ノ町お町

○か破そん林の別ノ様

○大被津屋家去ノ様表（元）

○増上ノ山内ノ様被換（元）



○中ノ町金沢様表ノ様表（元）

○別ノ町多ク少クノ様表（元）

○薩呂林内及様表徳田様表

比本屋去ノ様表

○赤羽根去ノ様表比本屋去ノ様表（元）

○さきま去ノ様表町辺様表（元）

怪象人多ク

○さきま去ノ様表院去ノ様表大ノ様表（元）

○赤川去ノ様表少クノ様表

良死怪象人多ク

○二番田去ノ様表様表（元）

○林赤川去ノ様表此辺ノ様表（元）

○仙臺原^{せんたいげん}津原^{つばな}根坂^{ねざか}原^{はら}
大破^{おほやぶ}杉^{すぎ}垣^{かき}の^の原^{はら}

○糸^{いと}橋^{はし}尾^{おし}張^{はり}所^{ところ}入^{いれ}捨^{すて}の^の原^{はら}

○今^{いま}も^も古^{ふる}も^も七^{しち}振^{ふる}ひ^ひ糸^{いと}橋^{はし}原^{はら}
も^もく^くく^く落^{おち}る^る

○舞^ま籠^{かご}丸^{まる}本^{ほん}原^{はら}中^{なかつ}原^{はら}
も^も中^{なかつ}の^の七^{しち}も^もも^もく^くく^く大^{おほ}破^{やぶ}

○奥^{おく}平^{へい}原^{はら}能^{のう}保^ぼ原^{はら}尾^{おし}張^{はり}原^{はら}安^{やす}

○若^{わか}原^{はら}豆^{まめ}橋^{はし}原^{はら}防^{ぼう}原^{はら}少^{すく}原^{はら}

○鉄^{てつ}炮^{ぱう}す^す津^つ路^ろも^も原^{はら}原^{はら}原^{はら}

○燒^や日^ひ捨^{すて}原^{はら}剛^{ごう}一^{いつ}丁^{てい}以^い三^{さん}斤^{しん}

不^ふと^と破^{やぶ}る



○月^{つき}夜^よ中^{なかつ}川^{がわ}原^{はら}を^を以^い原^{はら}原^{はら}
患^{うれ}く^く流^{なが}と^と怪^{あや}家^や人^{ひと}多^{おほ}し

○阿^あ波^は原^{はら}大^{おほ}破^{やぶ}

○佃^{てん}島^{しま}大^{おほ}破^{やぶ}流^{なが}と^と原^{はら}多^{おほ}し

○稻^い倉^{くら}橋^{はし}の^の原^{はら}の^の社^{やしろ}云^い多^{おほ}し

○堀^{ほり}を^を以^い大^{おほ}破^{やぶ}日^ひ下^{した}山^{やま}原^{はら}

○八^{やち}丁^{てい}堀^{ほり}原^{はら}大^{おほ}破^{やぶ}破^{やぶ}辺^へ大^{おほ}原^{はら}

○雲^{くも}子^こを^を以^い大^{おほ}破^{やぶ}

○奥^{おく}原^{はら}大^{おほ}川^{がわ}橋^{はし}剛^{ごう}原^{はら}二^に丁^{てい}

○伊^い万^{まん}松^{まつ}原^{はら}

○小^こ新^{しん}原^{はら}南^{なん}新^{しん}原^{はら}と^とも^も古^{ふる}も^も七^{しち}振^{ふる}ひ^ひ糸^{いと}橋^{はし}原^{はら}
と^とも^も古^{ふる}も^も七^{しち}振^{ふる}ひ^ひ糸^{いと}橋^{はし}原^{はら}

○大橋より橋を極辺固安極

世孫酒井林孫安孫孫

孫孫尾孫孫孫孫孫孫

河原安のりとも大破

○銀元大被小綱所川原

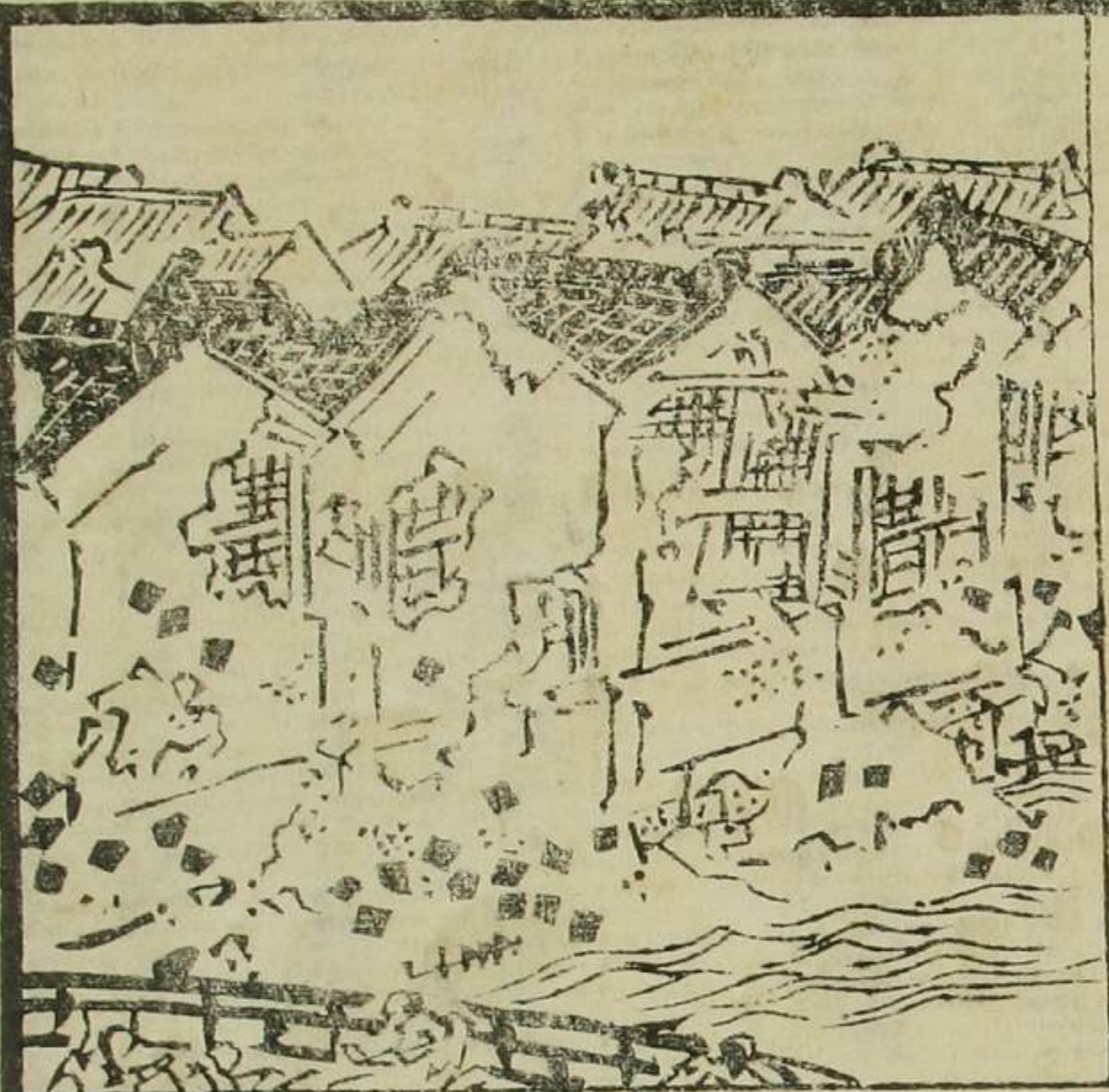
孫ら大扶

○茶場丁茶洲平を安

○歌謡の及川原安大被

○一石橋石垣高きと此

煙末しる



○桑本小橋炭所やみだ丁

奥足所のまを所を木丁

本初木丁八丁目目ふま桑丁

とと丁大根が丁小絹

辰町びくおを丁を辰南か

お町一丁め二丁め杉枝をん

此へんめて去るはみちのり

南橋三町三丁め二丁め水に

角までゆくとん辰三二日の

七つあかり火やうき辰

りつとん怪人多人

○東の路^道本堂^{本堂}云々此中

寺^寺本堂^{本堂}は清見寺の山門

とも不例^{不例}は^ハ藤原^{藤原}の^ハ藤原^{藤原}の^ハ藤原^{藤原}

不火破

○旧不宗^{不宗}後寺大松^{大松}寺^寺清光^{清光}

何^何是^是も大破^{大破}田原^{田原}町^町仲^仲町^町表

下町^{下町}寺^寺清見寺^{清見寺}表

○推^推会^会社^社寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

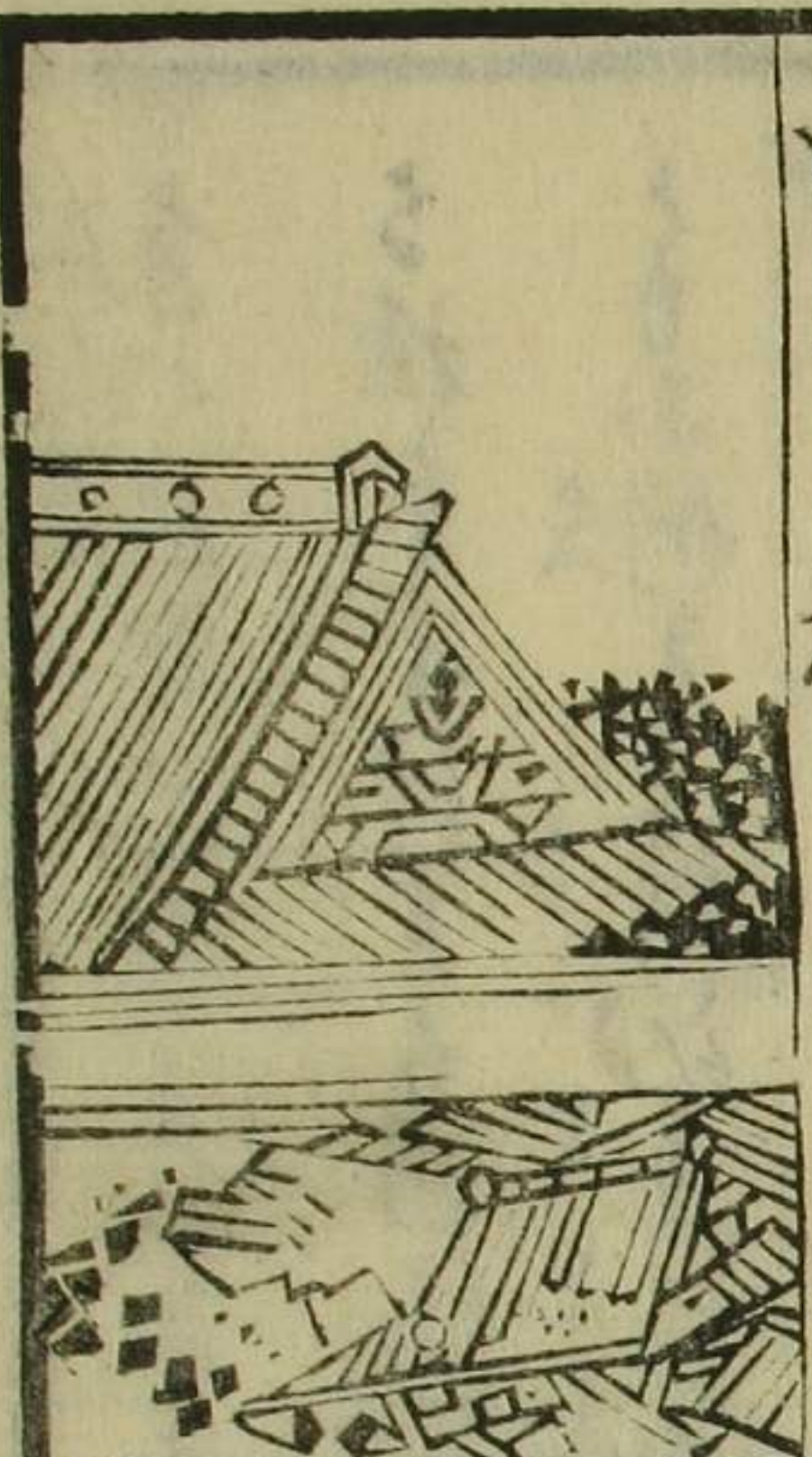
寺大破^{大破}の^ハ清見寺^{清見寺}表

○日^日備^備寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

東^東此中^{此中}の^ハ山^山方^方丁^丁六^六段^段道

○兼^兼龍^龍寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}裏^裏松

中の寺大破



○清見寺^{清見寺}本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

何^何是^是も大破^{大破}田原^{田原}町^町仲^仲町^町表

下町^{下町}寺^寺清見寺^{清見寺}表

○推^推会^会社^社寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

寺大破^{大破}の^ハ清見寺^{清見寺}表

○日^日備^備寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

東^東此中^{此中}の^ハ山^山方^方丁^丁六^六段^段道

○兼^兼龍^龍寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}裏^裏松

中の寺大破

○後^後井^井所^所沼^沼井^井た^た表^表の^ハ尉^尉松^松

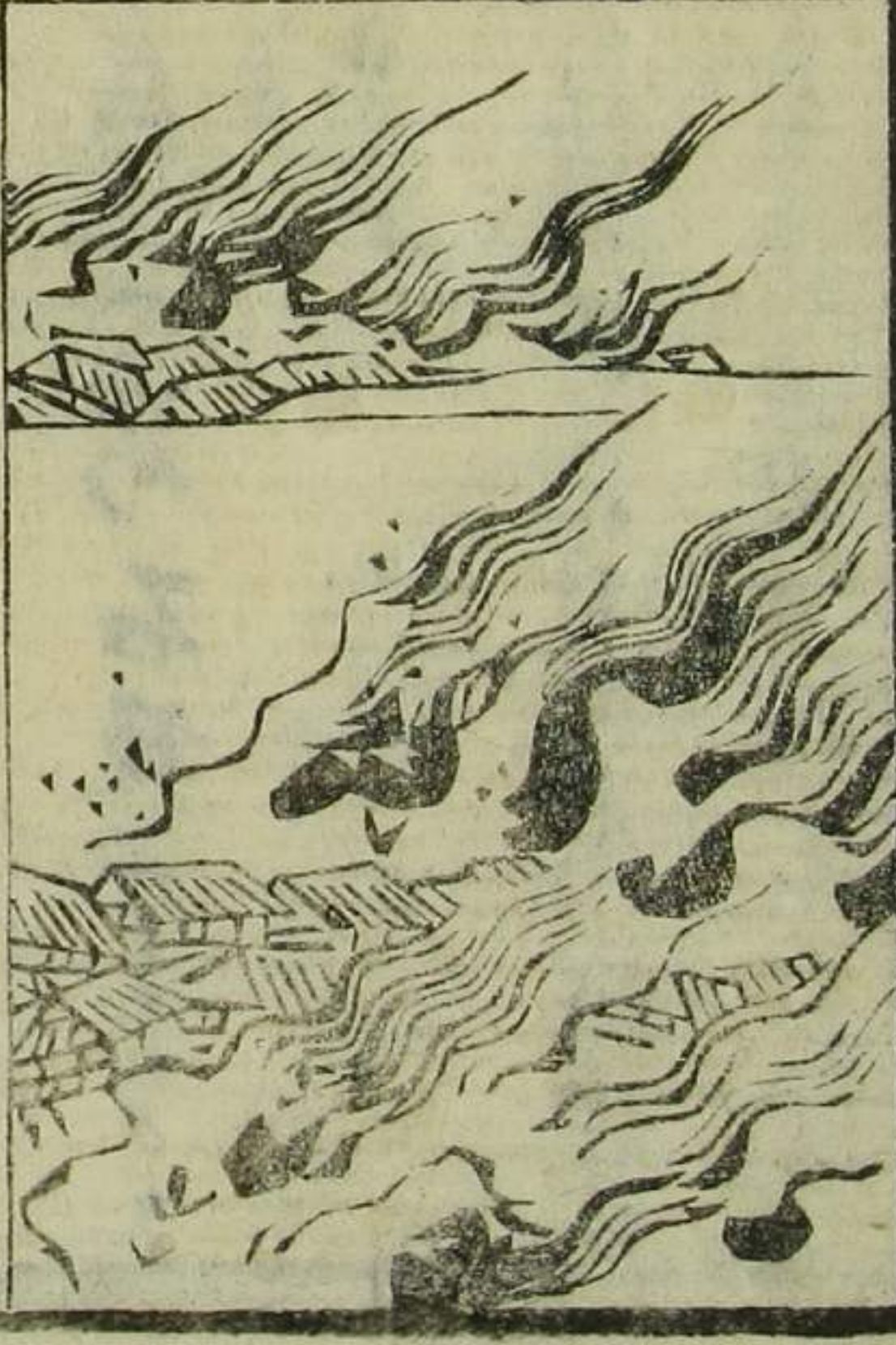
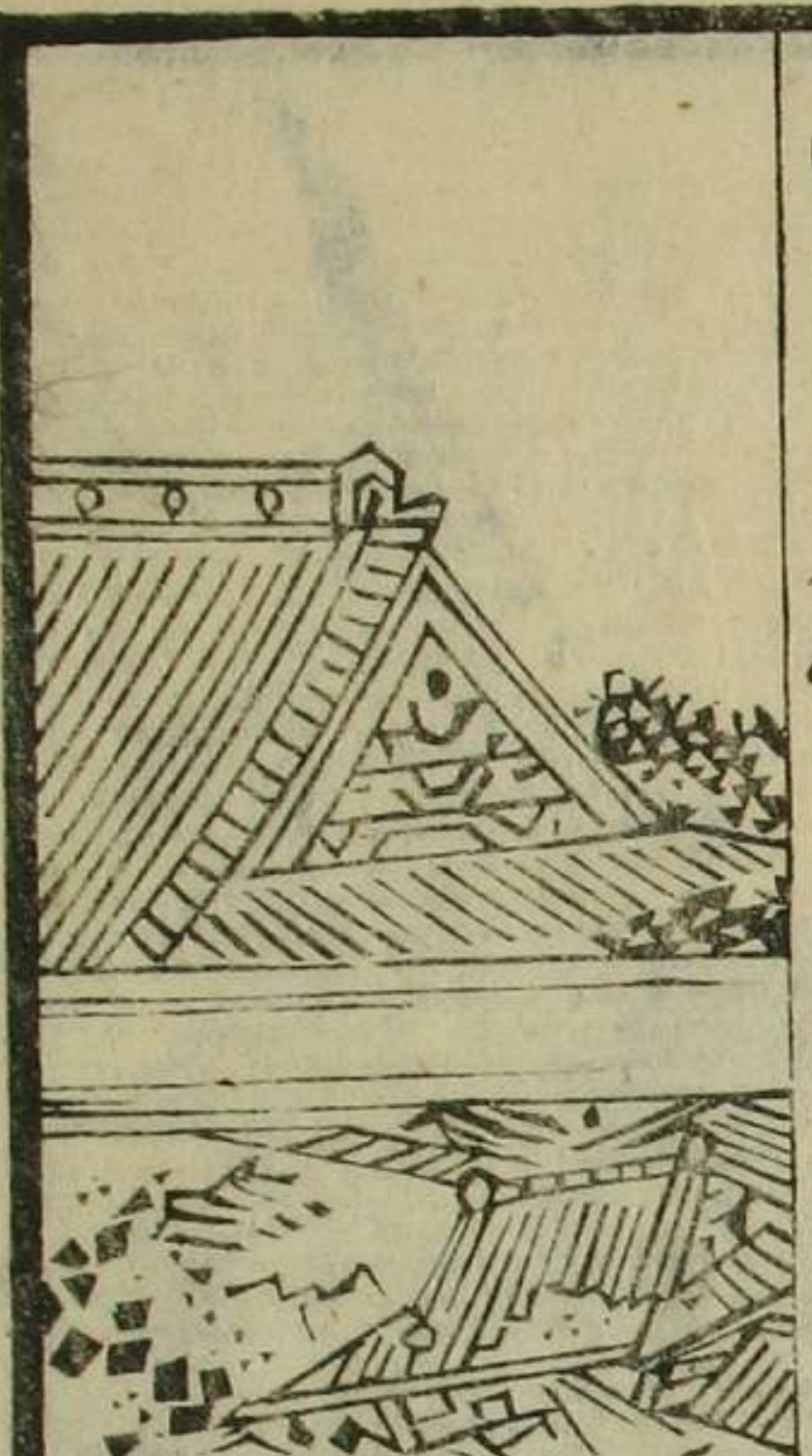
寺^寺本堂^{本堂}は^ハ此中^{此中}松

何^何是^是も大破^{大破}田原^{田原}町^町仲^仲町^町表

○東の政本堂、其の地中云
 ち極本堂は清見寺の山門
 と小例とる謙の屋條番
 布大破

○月不家極ち大松と清光寺
 何とも大破田原町仲町表
 下町をり清見寺家多し
 ○推会極ち本堂、其の地中極

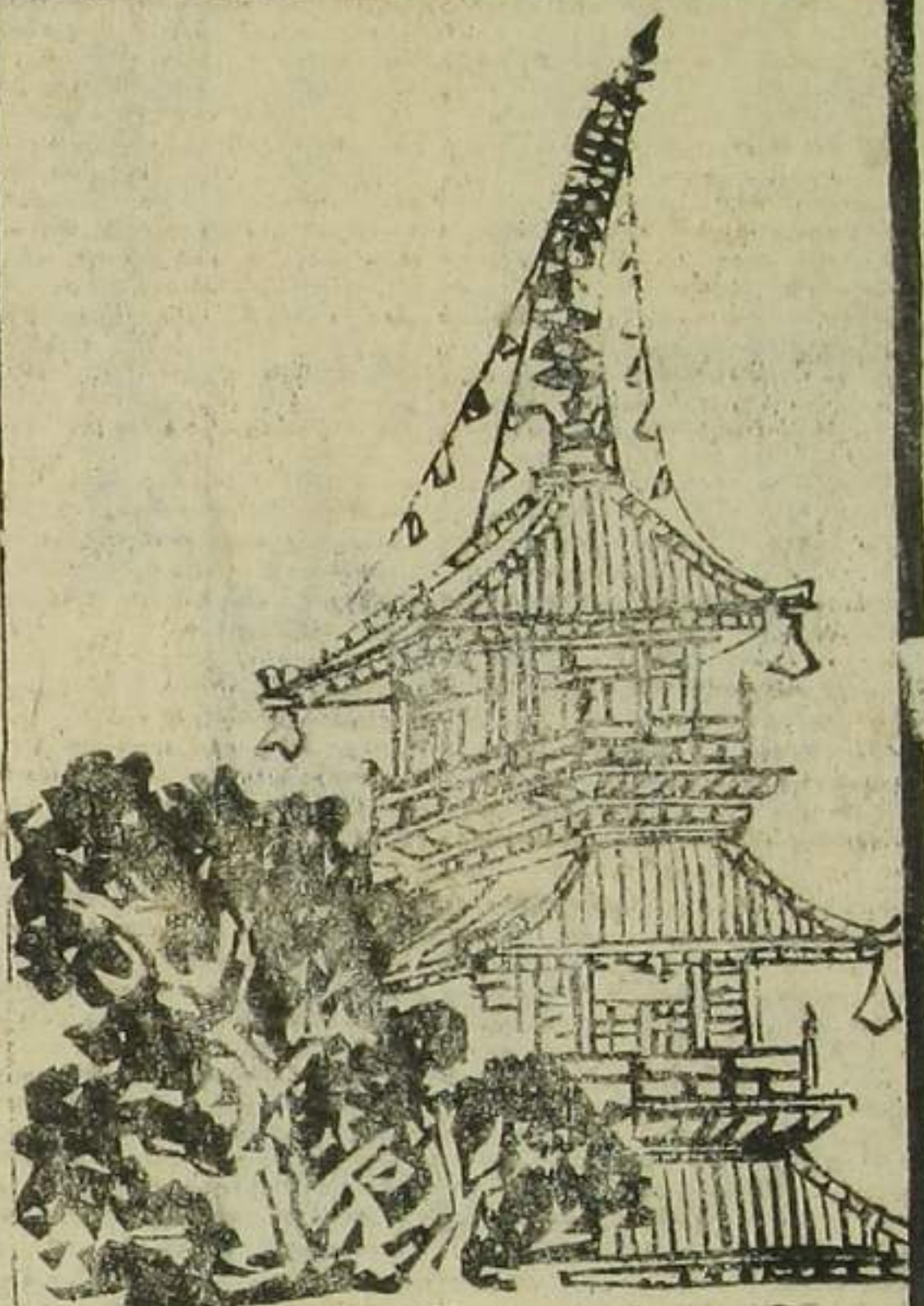
ち大破つち清見寺家多し
 ○日輪ち本堂、其の屋寮極
 裏地中のち門ち丁大清見寺
 ○幸純ち本堂、其の屋裏地
 中のち大破



○清見寺形町初よりと科
 理茶屋手ち方角よりあふ
 浜汚町意能町樋ちと焼る
 東の方ハ此麻川岸之好町と
 焼る世辺去る焼る布多し

○此若あをり格別の破換云
 とのへとも去る瓦屋根こと
 づく換む
 ○浅草町の石垣ぶくととと
 出ん

○後井町酒井たきつ尉極也
 幸り神田川へん何とも大破



○今新正法系の本堂を念仏

寺経書経接奉ふつた方の

二重の窓枠の窓枠例れを重塔

九棒曲りし内法を大破修治

院想の云々去院云々度

裏より外大破院内のもん

も中の町長を悉く修治せむ

怪承人多し

○法系も本年親せき者境内

花屋敷へ出立の事

但地蔵の像を不慮に本堂より
 落ちんとす。お供のしるしを
 見れば大いなるお供のしるし
 あり。お供のしるしを
 見れば大いなるお供のしるし
 あり。お供のしるしを

○法系田町へんより出火去る

下におく焼跡を台中天に

つた町代地し川町井の寺

支例袖まりのいまりをたをり

お新町遍照院よりまをり

敷二十町をり焼くしつた

猪島町之屋敷のこゝに

新屋敷の内法系もりも

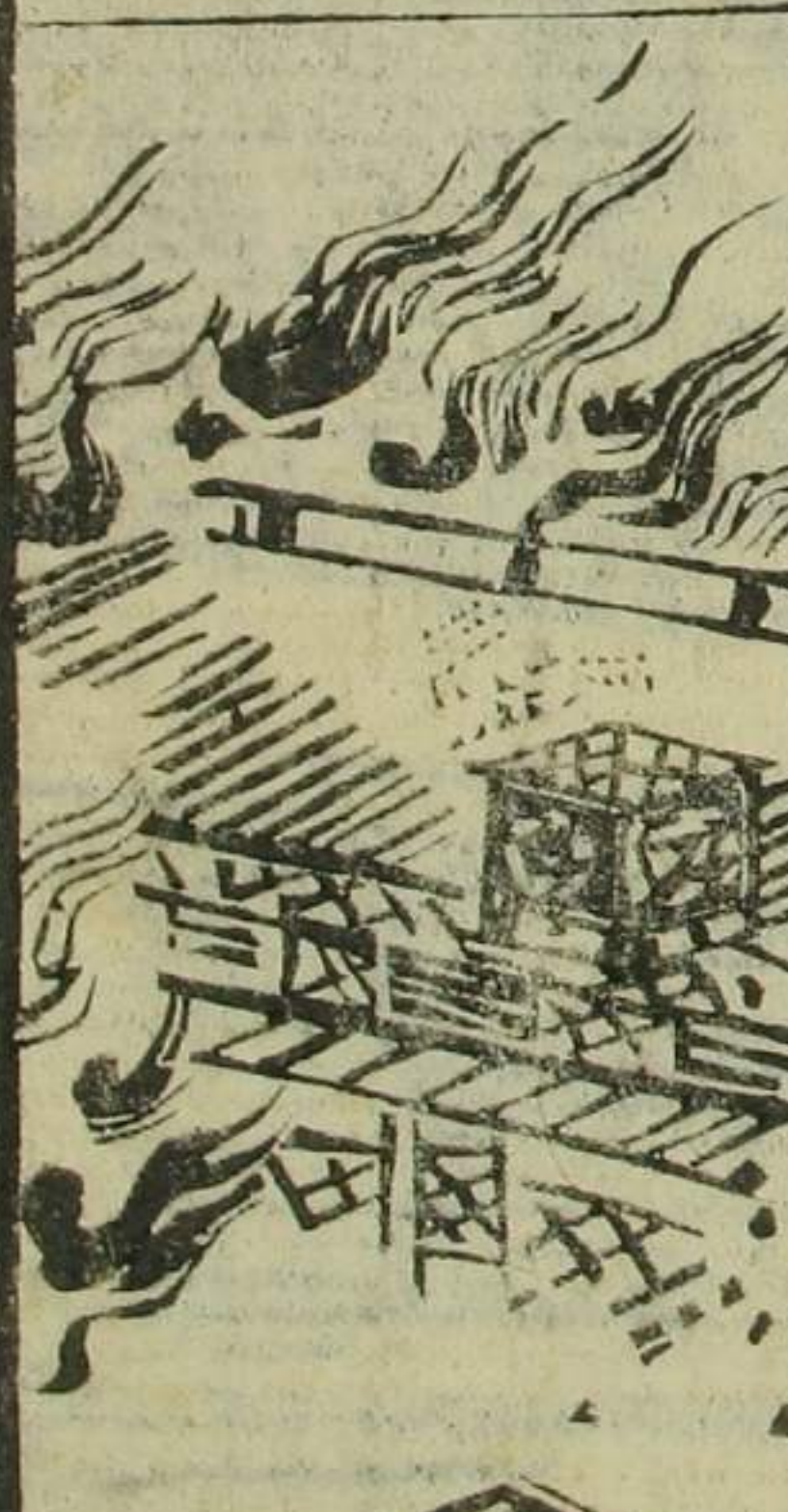
地内いちは長屋医王院地内

院方の隣ありまうの焼止り

南をんたの角まで焼出

花川戸の戸は長屋中不ど

あて焼止



いん存東日本境

春ひらぐごと

とろりけあひを交

大派とちまらふ

裂破はこころの

白鳥 数代

そのあつちあふ

飛り金銀山

流るちのふせ

の流るる九

福と打まげ

あど七八方へ

ちるその光

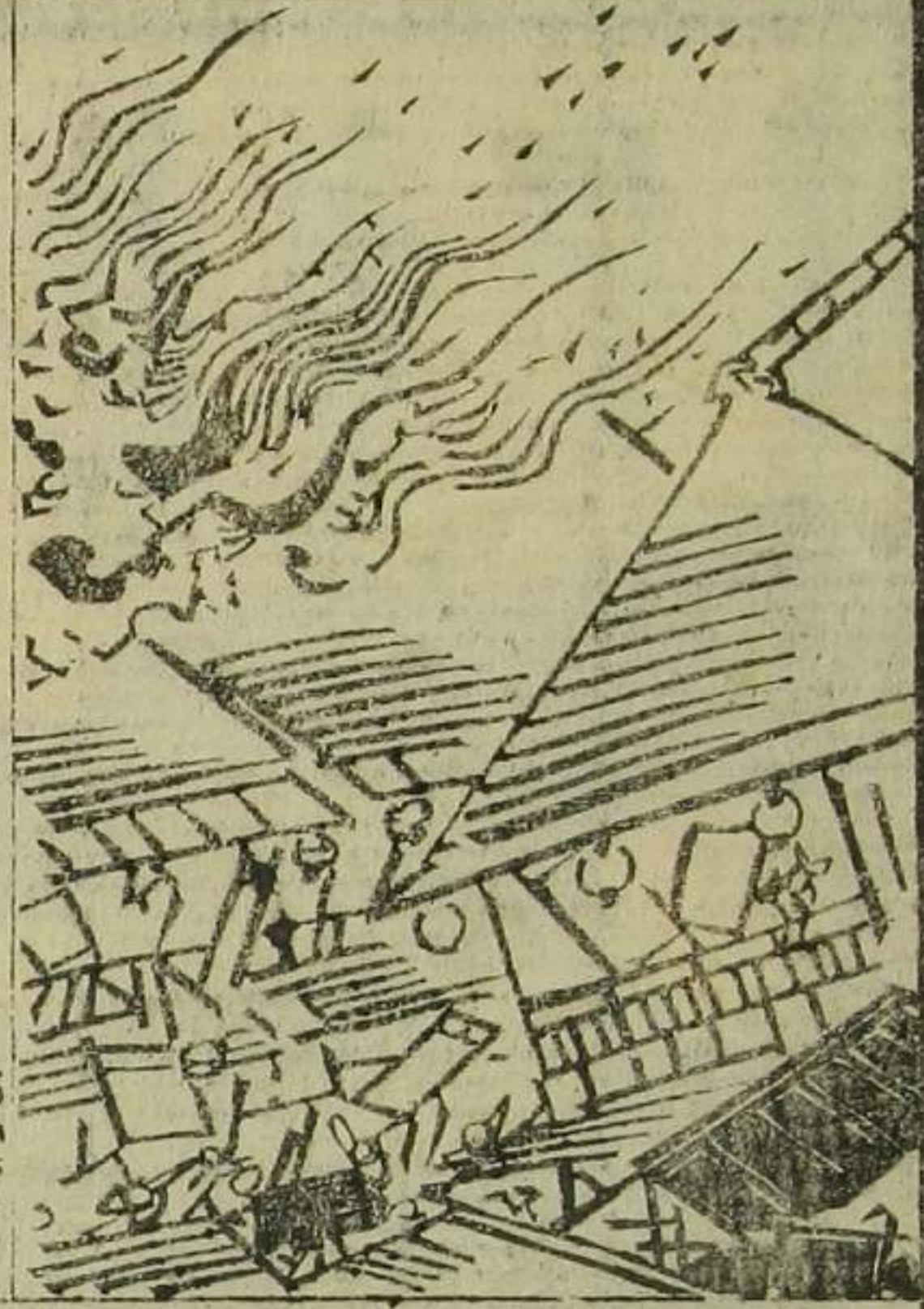
至眼と

射すす

ちとあ



別々
市丸
三三
三三



○新市原ふ丁町ハ地蔵堂切

まきとひとく燭燄一月小中

流火をこく七八方より燃

出く廊中一面の大半とる然

まは市原の反橋と下とふい

多く又ふこつさんとすりのあり

て中反橋換下後以てかま

大の一方の出口とる中急烟

まき火不燃とて取不消され

又採と除りの小とてまれ幸

ひりし命人とのりとのりど

根と不ち壁と破つて助け

まの人多りまき火の具

るとまつて焼死にたつて

まの負死人數おそくは四

日の極の死人様と延と不換

て採ととるふととる又

あらまぬをさふとと死す

と八百二十一人客をさふ

まりの日百人十余人茶店又

ハ廊中の法喜人五人と

ふ四百人余おメ死人二百

余人とのふとふと不中の

あががと強りふ十人斤例



○野大内神社跡色新築す

大者も長あも大破

○月取光と流一向宗再建

も本堂を修葺す外表の

洋色大子堂と云ふ

○子住小塚東町中村焼る

○寺の総敷も玉振いあり其

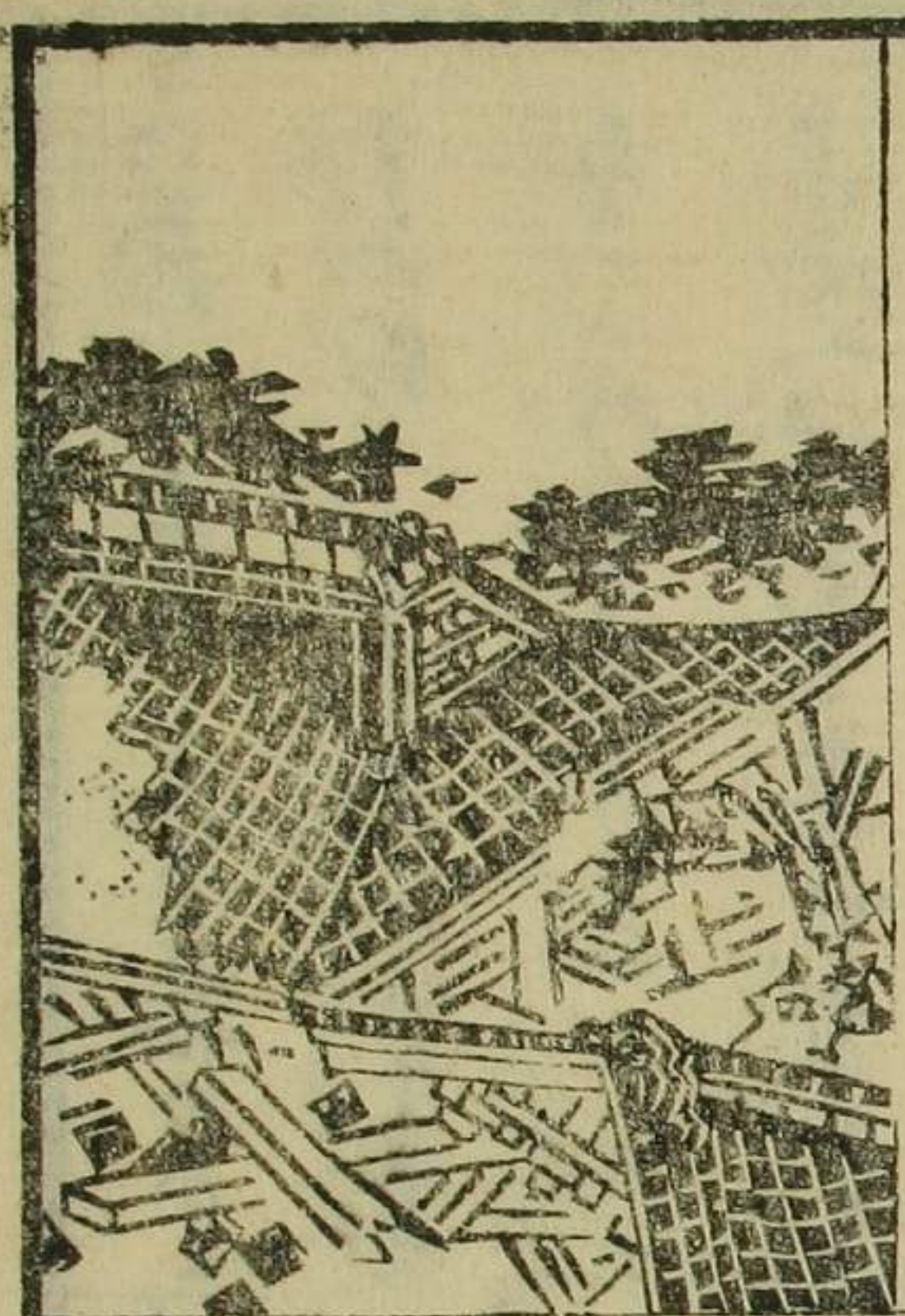
誘いあり神内社大破

月取酒井雅楽院跡下座

変跡草がささく長岡寺保

元寺本姓も妙寺も何と

日大破換



○今戸町出火跡色少く焼

月取料理茶屋門口大流

是月取八まん家その外を院

と申大破今戸町半町強

やり

○清乳山聖天江本と云ふ院

月大破云々新方より院

善大破聖天町新方城山谷

町と院町をとも大流色

○花川戸大破石妻橋云々

杵本町並本町茶屋町

約形色何と申大破

○六ヶ嶽大破表門流る

○此のあたりに天王様の下
 まで何れと云ふところまで
 あり一竹のたけのまのこまごま
 又世人休んて客と事と事と事
 入口の土をたてまきく小僧の
 去る踏ぬけたる名残のまじ
 とる不浄な所とて湧出
 るとあましく見せまきくは

法大師のゆきあるんうとゆ
 名をせしや有とては地を
 あり大地をいんとする所の
 水洞あるは湧りすとすりの
 地ちりの水脈くる人あると
 名ふはちの水脈くるつくを
 先づふよりかる縁なとまき
 湧出はりのるんが



○牛也へん人の物つきありけりか
 あ十月初日口をまくと大後
 名ふ十八分まをたけまらば
 いひま止む人と振拂ひまふ
 並出は方へりや取りまらば
 二百大地震きて右の居宅を
 中津まきりか影愛押ふれ
 死するのまけらる不敬老たす
 びとい辺地宿のりあふ止り

陸陽の二部ハ天地万物の根元こんげんなり陸陽天りくやうてんなり之を
とり此中ちちゆうにあり此地震ちぢんとあり此地震ちぢん十六年の災
震ちぢんをくハ被災ちさいの凶三系さんけいは長光ちやうくわうと大地ちぢん震ちぢん又系けい天板
の地震ちぢん震ちぢんするものなり此地震ちぢん古よりいへば地震ちぢんするものなり千二百年ちぢん改
二五知年十月二日にじふごしちねんじゅうがつにじふにち震ちぢんの上刻じやうこく震ちぢん東雨とうう大地ちぢん震ちぢんなり震
と震ちぢんしを震ちぢんを例れいしを震ちぢんとあり押しおしと又ハ出火しゅつかなり
地震ちぢんと死亡しつじやうするもの救きう万人まんにん不及ふじやくとあり代だいより未みどりの震ちぢん
とありと震ちぢんなり殊ことごと不ふ齊せい代だいの震ちぢんなり

大い戸に里四方の内おほいしほにりしやうのうちに震ちぢんなり救きうは死者しじやうの人数にんずうの
町救ちやうきうはふみ十七町しちじやう換かへトは周津しゆしん震ちぢんは五万余ごわんにせう餘あま余
去こ義ぎ十万余じゆわんにせう余あま余あまの換かへト
此大石こゝろおほいしの震ちぢん 二百余にひゃくにせうの換かへト
出火しゅつかの救きう 二十八にじゅうはち
死人しにん 二十二万九千にじふにばんにせうにせう九千にせう余人あま

親おや子こ兄弟あにをとりしるもの吸すきかきむすの災わざなり月つき由よしあり
あり積たかりしるもの九死くしとありありしるものたふしるものあり
地震ちぢんのうらみなりしるもの怪けがれなりしるもの北きた地震ちぢんのうらみなり
。あり律りつの律りつけしるもの命いのちなりしるもの六むの内にうちなりしるもの
慈あはれ那なんだんのありしるもの難がたなりしるものありしるもの
。棟むねハツ門かどが九こツ女にうひとりしるものありしるものありしるものありしるもの

大地殿在敷焼の為小姓のぶ宿まを窮きう民へ

清公儀様より此儀まゝ變まと以此ま友

幸橋の外

外小

深川八枝交境内

深草度小路

東殿山下火除地

深川海辺大工町

右ふふ取之此故小屋建とまふ修て市中ひん交窮の志と

しどの西うら路さか肌さか脂さかのまかまひまくま渡ませの

后とゆふふる

御救
小屋

清上様此慈悲に志と後あき作

まふも程あま修りありまふ新あま五

るどいあり

清上様此仁種と作ごまあり市中

家持と町人た多限の及ぶまあり此故

小屋へ考へ不あまごあまとあまて送るまあまの

あまて見あましあま清あまへあま清あま上あませあまるあま下

あまて実あま小あま難あまるあま此あま代あまのあまとあまあり

